

早稲田大学 商学部 日本史 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	模試の成績を云々する生徒がいるが、一般の大学入試を意識したオーソドックスな問題がいくらできて、早稲田の問題が解けるわけではない。出題される用語の水準や設問の形式など、早稲田向けの対策があって初めて高得点が得られるのである。正誤問題にしても、それぞれの作問者が作る誤文のタイプを考える訓練をしておかないと、大問1のように消去法が使えない問題は解けないのである。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
1	古代の政治史	「適当なものが無ければ6をマークせよ」という消去法の効かない問題形式のせいで、難度が高くなっている。一般的な受験生向けの模試では、あまり出題されない形式なので、過去問などでこのタイプの問題になじんでいないと辛いだろう。問Iは消去法が使えず難しいが、他の問題が正解できると、ここでさらに6という答えはあり得ないだろうと思えてくる。	標準
2	永仁の徳政令・中世の経済	問Jがやや難しい。史料Iは大変有名な史料だが、こうした一部分の抜粋に備えてあったかどうか。ワンフレーズで史料判別ができるようにしておく必要があった。	やや易
3	近世初期の外交	早稲田ではあまりに定番なテーマからの出題。定番なのだから、もう少し難しく出題してほしいとすら思うほどである。問Eは1(奉書船)でも正解ではないかという意見もあるが、作問者の考えは明らかに3(朱印船)である。その根拠は「出題者が著書でそう書いているから」だけに留めさせてください。	やや易
4	近代の外交	商学部によく見られる「2つマークせよ」というタイプの問題で、当然2つ正解して初めて得点があたえられる。問D・Gがやや難しく、問Hが難問。	標準
5	55年体制・産業革命	問A・Dがやや難しい。論述問題は問Fがやや難しいが、文字数が少ないのと用語指定がついているため、推測で自分で論を構築することができた人がいるだろう。近現代の経済のしくみを理解することの重要性がよくわかる出題であった。	やや難

6	江戸時代後期の外交・大衆文化と大正時代の社会運動	近代の文化まで学習が間に合っていなかった人にはきつかったかもしれないが、易しい用語しか問われていない。	易
---	--------------------------	---	---